

主 題：七つのラッパが吹かれる6、御国の到来**聖書箇所：ヨハネの黙示録 11章15-19節**

第六のラッパが吹き鳴らされた、神のさばきが下ったことを9章で学びました。四人の御使いが解き放たれて、人類の1/3が殺されるという大変恐ろしいさばきが記されていました。しかし、それなのに人々は神の前に心を開こうとしません。多くの人々はそのような中でもなおも神の前に罪を犯し続けている、その姿を私たちは9章の中に見て来ました。そこで、最後のラッパが吹き鳴らされようとしています。その第七のラッパが吹き鳴らされる前に、ヨハネは二つの幻を見ました。小さな巻物を持った一人の天使の幻が10章に出て来ました。彼は神に誓いました。もはや、時が延ばされることはない、必ず、神が約束されたさばきが起こる、しかも、それは今まさに起ころうとしていると、そのように告げました。

11章では、ヨハネは二人の証人の幻を見ました。彼らは悔い改めのメッセージを3年半の間、人々に語り続けて来ました。彼らには大変な力が備わっていたことが記されていました。敵を滅ぼす力をもっていた。自然界を支配する力をもっていた。しかし、このすばらしい二人の証人たちは偽キリストのみことばには「獣」と記されていましたが一彼によって殺されることが書かれていました。しかし、この証人たちはその後よみがえり、そして、天へ凱旋していく様子が記されていました。

そして、また、神のさばきが下ります。大きな地震が起こってエルサレムの1/10が破壊され、七千人の人々が死んだとあります。確かに、これによってある人々は恐れを抱き、神に対して心を開く者もいました。しかし、そうでない人たちはまだまだこの地上にたくさんいたのです。11章14節に「第二のわざわいは過ぎ去った。見よ。第三のわざわいがすぐに来る。」と書かれています。まさに、その時、終わりのときを迎えようとしているのです。

15節には第七の御使いがラッパを吹き鳴らしたことが書かれています。「第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。…」と。今日から私たちは、この最後のラッパが吹き鳴らされて、その後、何が起こっていくのかを見ていきます。実際にラッパが吹き鳴らされた後、この地上に大変な神のさばきが下るのですが、その詳細に関しては16章から記されています。「七つの鉢のさばき」と言われます。七つの鉢が地上にぶちまけられ、その後、大変なさばきが起こることが記されています。この「七つの鉢」というのは、ちょうど、七つのラッパのさばきが七つ目の封印の中に含まれていたように、七つの鉢のさばきもこの七つ目のラッパの中に含まれています。七つ目のラッパがついに吹き鳴らされ、その中に七つの鉢のさばきが出て来ます。それが16章以降に記されているのです。

最後のラッパが遂に吹かれる 11:15~*A. 神への讚美 15節**

さばきが起こる前に、さばきではないことが起こっています。神への讚美が起こっています。15節「…すると、天に大きな声々が起こって言った。…」、まず初めに私たちが気づくことは、ヨハネはこの光景を天で見ているということです。黙示録を見て来て私たちが何度も教えられることは、ヨハネはある時は地上で光景を見ているが、ある時は天で光景を見ていることです。15節では「天に」とあって、天にこのようなことが起こったと言っていて、ヨハネは天での出来事をここに表わしているのです。

1. 讚美をささげた者たち

もう一つ見ていただきたいことは、「天に大きな声々が起こって言った。…」という箇所です。四つのことばがここに並んでいますが、その一つ一つのことばを見ていただきたいのです。「大きな」という形容詞、「声々」という名詞、「起こって」という動詞、「言った」という動詞、これらの四つのことばはすべて複数形で書かれています。つまり、天における光景を見ていたヨハネは、その天において讚美の声を聞くのです。そして、その讚美の声を発していたのが一人ではなかったと、そのことを言わんとしているのです。いったい、だれがこの讚美の声を発していたのか？少なくとも、私たちがこれまで黙示録で学んで来たように、無数の天使たち、罪を犯すことなく神に仕え続けている天使たちが神を誉め称えます。しかも、16節から見ていくと、24人の長老たちがまた出て来ます。これは教会の代表だとすでに学びました。その救いに与った者たちも同じようにして神を誉め称えるのです。

ですから、このように複数形で書かれていることが意味することは、天にいるすべての者たちがこの讚美の声を上げているということです。その様子をヨハネは示しているのです。

2. 讚美の理由

なぜ、彼らがこの讚美を神にささげたのか、その理由を15節で教えています。皆さんに思い出して

いただきたいのは、この世界を支配しているのはだれか？ということです。「サタン」です。アダムとエバの神への反逆以来、サタンはこの世を支配しています。ですから、主イエスが40日40夜の断食の後、サタンの誘惑を受けたときに、非常に興味深いことをサタンが言っていることをきくと皆さんは覚えておられることでしょう。ルカ4：6，7にこのように書かれています。「こう言った。「この、国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。：7 ですから、もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」、サタンがこうして主を誘惑した様子です。この「任されている」という動詞は「手渡す、引き渡す、譲渡する」という意味をもっています。サタンはこのように言うのです。彼は何を「譲渡」されたと言っているのか？「権力と栄光」です。でも、神がそれを譲渡したわけではありません。

サタンはアダムとエバを誘惑しました。そして、人類が罪を犯すことによって、サタンは罪を犯した人類を、この世界を支配するようになったのです。サタンはこの世を支配している主権者であると。主権者とは、すべてのことをご自身の意志によって統治・支配する絶対的主権者です。ご自分の考えに基づいてすべてのことを為さるお方です。それにふさわしいのはすべてを造られた創造主なる神だけです。しかしながら、真の主権者でない一被造物に過ぎないサタンは、人類を罪へと誘惑し、その結果、この罪の世を支配するものとしてこれまで君臨して来たのです。

では、なぜ、天にいるすべての者たちが神を誉め称えているのか？そのサタンの支配が終わるときが来たからです。そのことをヨハネはここで明らかにしたのです。そのことを彼らは知ったゆえに神を称えているのです。15節の最後に「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」とあり、このように「讚美の理由」をヨハネは記しているのです。このことばは非常に意味深いものです。

◎この世の国： 「この世の国」とありますが、私たちは当然、「この世の国々」と思います。この世にたくさんの国が存在するからです。でも、ここでは「単数形」を使っています。確かに、たくさんの国々が存在するのですが、この世のすべての国々はあるものの支配下にあるのです。ひとりの同じ存在の支配下にあります。サタンです。だから、国々が集合体で記されています。同じ支配者から同じ影響を受けているということです。しかし、それが変わるのです。

主がサタンからその支配権を奪還し、サタンに対して完全な勝利を得るときが遂にやって来たと言います。神の敵であり、私たちの敵であるサタンの敗北のときが遂に訪れたということです。レオン・モーリス師が言うように「悪の反乱は最終的に壊滅する」と。その時が来たのです。サタンはこの世の神としてすべてを支配して、そして、これからも永遠にすべての人たちが自分を崇拜する、そのように存在を示し続けていけると思っていたのです。でも、神は「それは終わる」と言われます。そして、その終わりが来たことをこの天の軍勢は喜び神に感謝するのです。

◎私たちの主およびそのキリストのものとなった： よく見ると、これは奇妙な表現です。「私たちの主およびそのキリスト」と何か別の存在のことを言っているようですが、私たちは「主」と「キリスト」は同じお方を連想します。だから、別の存在のように記されているこの箇所は奇異に思えるのです。説明します。ここには意味があります。実は、「主」と記されていることばは、新約聖書では通常「イエス・キリスト」のことです。しかし、先ほどのレオン・モーリスという神学者によると「黙示録の中では父なる神について「主」ということばが頻繁に使われている」のです。ですから、この15節で言われていることは「私たちの父なる神、および、キリスト」です。

実は、このような書き方はここに初めて出て来たわけではありません。黙示録はかなり詩篇からの引用をしています。詩篇2：2，9をご覧ください。今見ているのと同じ表現がここにも書かれています。「：2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、【主】と、主に油をそそがれた者にと逆らう。」と、この【主】とは「父なる神」のことです。「主に油をそそがれた者」、これがキリストのことです。「キリスト」はその意味を持っています。ですから、「父なる神と主に油をそそがれたキリストとに逆らう」ということです。9節を見ると、この油注がれたキリストが勝利を得ることが書かれています。「：9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』」と。逆らった者たちを完全に滅ぼすということです。ですから、この15節の「私たちの主およびそのキリストの」は「父なる神、そして、主イエスの」です。彼らがすべてのものを支配する、その時が来る、そして、その時が来たと言ハネが告げるのです。ここからも教えられることは「父なる神と主イエス・キリストは同等である」ということです。

さて、15節の続きに「…ものとなった」ということば、ここでは支配者が変わるということをお話していますが、このことばは「不定過去」という時制です。この後何度もこの時制が出て来ますから、覚えておいてください。過去のことです。15節では「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。」ですが、14節では「第三のわざわいがすぐに来る。」と言って、15節ではそのラッパが吹き鳴ら

されたと言ひ、実際にこの地上に起こるさばきは、先に話したように16章以降に書かれています。そうすると、まだそのさばきが起こっていないのに、まだ、主イエス・キリストがこの地上に降りて王国を築いておられないのに、この表現を見るとそれが過去の出来事のように書かれています。不定過去という時制を使っているからです。なぜ、この時制を使ったのか？皆さんはもうお分かりのことと思います。それは確かにこれからのこと、未来のことですが、それが確実に起こることだからこの不定過去を使って書くのです。

ですから、ここに記されていることは起こるかどうかわからないことではない。間違いなく、絶対に起こることです。そのことをヨハネは明らかにしているのです。何が起こるのでしょうか？サタンが支配が終わり、神が支配するそのときが来るということです。神がご自身の敵に勝利するそのときが来るのです。そのことは旧約聖書にも預言されていました。たとえば、

ダニエル7：14「この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」

ダニエル2：44「この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、その国は他の民に渡されず、かえってこれらの国々をことごとく打ち砕いて、絶滅してしまいます。しかし、この国は永遠に立ち続けます。」

ダニエル4：3「そのしるしのなんと偉大なことよ。その奇蹟のなんと力強いことよ。その国は永遠にわたる国、その主権は代々限りなく続く。」

ダニエル6：26「私は命令する。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。この方こそ生ける神。永遠に堅く立つ方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。」

ダニエル7：26-27「:26 しかし、さばきが行われ、彼の主権は奪われて、彼は永久に絶やされ、滅ぼされる。:27 国と、主権と、天下の国々の権威とは、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その御国は永遠の国。すべての主権は彼らに仕え、服従する。』」

ゼカリヤ14：9「【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる。」

必ず、神がすべてを治められる。神が御国を築かれる。そのことを私たちはこのように旧約聖書からも教えられるのです。ですから、この箇所が私たちに教えていることは、支配者が変わることで、そして、15節の最後にある通り「主は永遠に支配される」、主イエス・キリストが地上に戻って来られ、千年王国を築かれ、その後も継続して永遠に神のご支配が続くということです。主が勝利を収められた以降、サタンも、また、だれもそれを再び奪い取ることはできないのです。永遠に神のものであると、そのことがこの15節に記されています。だから、彼らは神に感謝したのです。神に讃美をささげたのです。遂に、その日がやって来たのです。

B. 24人の長老たちの礼拝 16-18節

彼らは遂に神の王国が確立されるということを知り、その神にひれ伏して礼拝しています。彼らは神への感謝をささげています。なぜなら、長年の祈りが遂に聞かれたからです。旧約聖書を見ていくと、多くの信仰の勇者たちはあることに疑問を抱きました。それは「神さま、この悪をいつまで放っておかれるのですか？なぜ、悪がこんなにはびこるのですか？なぜ、神に逆らう者たちがこのように楽しく生きているのですか？いったい、いつになったらあなたの正しいさばきが下るのですか？」ということでした。ダビデもその一人でした。その都度、神がお答になったことは「心配しなくてもいい。わたしは神であり、わたしはわたしの計画を必ず成すから。わたしは必ず約束したことを成就する。」です。そうして、神は彼らを教え導いて来られたのです。でも、人々は祈り続けて来たのです。「神さま、いったい、いつなのですか？いつあなたのさばきが下るのですか？いつあなたの正義がこの世に成されるのですか？」と。遂に、そのときが来たのです。神のさばきが下るそのときです。だから、彼らはこの神に心からの礼拝をささげ、神への感謝を言い表わすのです。

1. 神への感謝 17節

17節には「神への感謝」が記されていますが、ここには三つの神の属性を称えて感謝している様子が出て来ます。16-17節「:16 それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、地にひれ伏し、神を礼拝して、:17 言った。「万物の支配者、今いまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。」、先ず、三つの属性、神のご性質です。神がどのようなお方であるかということを見ましょう。

1) 神の属性

(1) 神である主 : 唯一真の神であられるお方、すべてのものの主権者、支配者であるお方、それに最もふさわしい神と、このように神を呼んでいます。

(2) 万物の支配者 : このことばのギリシャ語は「すべての」と「権をもつ」（権利のこと）の二

つのことばが一つになってできたことばです。ですから、これは「全権をもつ、主権者である、全能者である、また、抵抗できない力を持つ方」という意味をもったことばです。このお方の力にだれも抵抗できない、この方に勝る力をもっているものはどこにも存在しない、そのようなお方だと24人の長老たちが誉め称えるのです。

(3) **今いまし、昔います** : これもよく出て来る表現です。黙示録1:4をご覧ください。「ヨハネから、アジャにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、後に来られる方から、…」とあります。同じ1:8には「神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。…」、11:17に書かれている神のご性質と同じ表現がされています。4:8を見てください。「…「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後に来られる方。」、このように今3箇所を見ましたが、どの箇所も神に関して同じ表現がされています。ここで皆さんに見ていただきたいことは、1:4、1:8、4:8に記されていたあることばが11:17では抜けているということです。それは「後に来られる方」ということばです。なぜですか？このお方がもう来られたからです。約束の主がこの地上に来られたのです。まさに、これこそマタイ6:10で「御国が来ますように。…」と主イエス・キリストが弟子たちに祈りを教えられたときのこのことばが成就したのです。御国が来たのです。王がこの地上に戻って来られたのです。王国を築くために、ご自身の御国を築くために…。だから、「後に来られる方」ではないのです。もうこの方は来られたのです。だから、彼らはそのことを喜んでいのです。神に感謝しているのです。待望の王が来られたと。

2) 神のみわざ

このお方はすばらしいみわざを為されます。続いて17節をご覧ください。「あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。」

・ **あなたがその偉大な力を働かせて** : 「偉大な力」とは、マスターズ神学校のトーマス先生は他の先生方のことばを引用して次のように説明しています。「最終的・圧倒的な力が示され、それによって神がご自分の敵を完全に打ち負かされる」と。ですから、主が帰って来られたときに、主は完全にこの敵を滅ぼされるということです。モーリス先生は「神が永遠に力を持っておられることを示している。」と説明しています。神は突然その力を持ったのではありません。ずっとお持ちだったのです。そして、遂に、その力を用いて敵であるサタンを滅ぼされたのです。神がこの力を永遠に持つておられることを証するために、この「働かせて」という動詞は完了形を使っています。つまり、神はその力を過去においても働かされ、今も継続して働かせておられるということです。完了形を用いることによって、神が働かされたこの力は彼のうちに永遠に存在しているものだとすることを明らかにするのです。そのような神なのです。神は今何もできなくて地団太踏んでいるのではありません。私たちの神は全能のお方であって、どんなことでもお出来になるお方です。すべてのことはこのお方の完全な計画に基づいているのです。それによって神の正しい審判が下ります。サタンは滅ぼされます。そのことが起こったのです。そして、人々はそのことを心から喜んでいことがここに書かれているのです。

・ **王となられたことを感謝します** : この「なられた」という動詞も不定過去です。ヨハネがまだこれを記しているとき「王となられる」とは未来のことです。でも、先にも説明したように、不定過去形を使っているのは、この出来事は確実に起こることだからです。ヨハネはこれから何が起こるのかを示されてそのことを記すのです。確かに、この出来事は、この手紙を読んだ人々にとっても私たちにとっても未来のことです。でも、ヨハネはそのことは絶対に間違いなく確実に起こると、そのことを私たちにはっきり知らせようとしてこのような時制を使って記しているのです。神は約束通りに、王としての支配を始められるのです。皆さん、これがヨハネが明らかにしたことです。悪は必ず滅びます。神のさばきは確実に起こります。

2. 神への讚美 18節

「諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」

1) **民の反応** : 18節の初めに「諸国の民は怒りました。」とあります。何を言っているのか？神が為されるみわざに対して、神を信じていない人たちは怒りを覚えるということです。それゆえに、彼らは何をするのか？16章を見ましょう。先に言ったように、この16章から七つの鉢のさばきが書かれています。七つの災いが起こるのですが、そのことを経験した人たちは何をするのか？16:9-11をご覧ください。「:9 こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。:10 第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。:11 そして、その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行いを悔い改めようとしなかった。」、

神のさばきが起り、本来なら、そのさばきの中で人々は悔い改めて神を受け入れるはずです。そのことを神は望んでおられます。しかし、人々はそのようにしないのです。彼らがまだ生きているのは神のあわれみです。神は彼らに悔い改めの機会をくださっているのにも拘わらず、人々は神の為さるさばきを経験しても、神を受け入れるどころか神に対して怒りをもつのです。その後、いったい何が起こるのか？神と戦おうとします。この後に、そのことが書かれています。人間は実に愚かです。私たちは神によって造られた被造物に過ぎないのに、自分たちの思い通りに物事が進まない神に対して怒りをもつのです。今の時代も患難時代も全く同じです。

人々はこうして神が救いの機会を与えてくださっているにも拘わらず、このような様々なわざわいの中にあって、神に対して怒りを持つのです。

2) 約束の成就 : 「しかし、あなたの御怒りの日が来ました。」と。これは約束の成就のことを言っているのです。神が「さばきをもたらず」と言われたその約束が成就したことを言っているのです。憶えておられますか？パリサイ人やサドカイ人たちがバプテスマのヨハネのところにバプテスマを受けるためにやって来ました。そのときにヨハネは大変厳しいことばをもって彼らを戒めました。マタイ3:7「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。」と。とても厳しいことばです。ヨハネが教えたことは、神に逆らっているあなたたち、このパリサイ人やサドカイ人たちを指して、あなたがたはさばきに会わないとだれが教えたのか？あなたたちは必ず、やがて来るさばきに会うということです。11:18では「あなたの御怒りの日が来ました。」と、その日が来たことを言っているのです。そのときに神の公正なさばきが為されます。

* 神の公正なさばき

(1) その対象 : 18節で教える通り「すべての人」が神のさばきの対象です。「死者のさばかれる時」とあります。その後「あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」と書かれています。つまり、死者のさばかれる時、そして、生きている人たちも例外なくさばかれるということです。そのさばきに服する人たちが次々と書かれています。「預言者たち」は主の真理を伝えた者たちです。その後、クリスチャンたちのことが記されています。「聖徒たち」、救いに与ったすべての人たち、新しくされたすべての人たちです。「小さい者も大きい者も」、これもクリスチャンたちです。身分などに関係なくすべての信者たちです。そして、最後に「すべてあなたの御名を恐れかしこむ者たち」と、神の御名を恐れかしこむクリスチャンたちです。ですから、この18節ではすべてのクリスチャンたちがさばきに会うということを行うのです。

そして、もう一つ、「地を滅ぼす者ども」とあります。これは神に逆らう人たちのことです。というのは、父なる神はご自分の被造物に関して、人間に命令を与えています。創世記に書かれています。1:26「神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」、つまり、人間には神が創造されたすべてのものを神に代わって神のみこころのままに管理するという責任が与えられたのです。

しかしながら、人間は自分自身がみこころに逆らっただけでなく、支配する自然を偶像としてそれに仕える者になったのです。そのことはローマ書1:23-25に教えられています。「:23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。:24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。:25 それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。」、本来なら、人間が支配すべき被造物です。そして、神のみこころを為す責任をもった私たちは神に造られたその被造物を崇拜するようになったのです。こうして、神のみこころに反する者たちのことが18節の最後に書かれています。

ですから、この18節を見ると、さばきに服するのはクリスチャンだけ、未信者だけというのではなく、「すべての人」と記されています。ローマ8:19-21にはこのようにあります。「:19 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。:20 それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」と。

(2) さばきの種類 : さばきの種類が異なること、そのことが書かれています。18節の後半に「…報いの与えられる時、」とあります。「報いを与える」とは「ふさわしいものを与える」という意味です。その人が行なったことにふさわしいものが与えられる、それが「報い」です。黙示録22:11. 12に「:11 不正を行う者はますます不正を行い、汚れた者はますます汚れを行いなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行い、聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。」:12「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれの

しわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」と書かれています。神に逆らい続ける者たちにはその行ないにふさわしい報いがあるのです。神を信じ従う者たちにはそれにふさわしい報いがあるということです。

【信者】 主イエス・キリストの救いに与っているクリスチャン、彼らに対する神の報いは？

・**王国** : 神の御国が約束されています。千年王国を神とともに過ごすこととなります。同時に、それで終わるのではなく、その後、永遠を神とともに過ごすのです。

・**主のほうび** : また、主はあなたの忠実さにふさわしいほうびを与えてくださいます。あなたが信仰者として、信仰をもって救いに与ったときからイエスにお会いするときまで、あなたが主に忠実に歩んだその歩みにふさわしい報いが与えられます。イエスは「山上の説教」の中で主のために迫害されている者たちに対してこのように言われました。マタイ5：12「喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。」と。いろいろな迫害の中でも喜んで主に従っていくなら、あなたの報いは大きい、その忠実な歩みに対してふさわしいものが与えられるというのです。

この当時、この手紙を受け取ったクリスチャンたちは大変な迫害の中にいたのです。彼らはこのことばにどれ程励まされたことでしょうか。神はその一つ一つの歩みを忘れておられない、必ず、それにふさわしい報いを与えてくださると。大変な迫害を経験していたクリスチャンにとってこの約束は大きな慰めになったはずです。願わくは、それがあなたへの慰めになることを望みます。忠実に歩むことは絶対に無駄ではないのです。主に忠実に従うことは決して無駄ではない。このみことばは私たちにそのことをもう一度教えてくれます。

【未信者】 に対する報いはどうでしょう？

・**地を滅ぼす者どもの滅ぼされる** : 彼らには彼らにふさわしい報いが与えられます。「地を滅ぼす者」と「滅ぼされるとき」、この「滅ぼす」はどちらも同じギリシャ語を使っています。ただ、時制が違うのです。「滅ぼす」は現在形で「継続して神に逆らい続けている」ということです。「滅ぼされる」は不定過去を使って「さばきが必ず、確実に訪れること」を表現しています。

だれ一人として、神のさばきから逃れることのできる人はいません。みな、神の前に立ちます。みことばが教えていることは、救いに与った者にはそれにふさわしい報い、祝福があるが、この救いを拒み続けている罪人に対しては、その人が犯して来た罪にふさわしい報いをその人が受けるということです。

それはどのような報いでしょう？「滅ぼされる」ということばを見ると分かります。「ある人やあるものの完全な破滅を表わす」ということです。実際に、ここで使われているこのことばは「ある人やあるものの完全な破滅を引き起こすもの」と、つまり、完全な、しかも、永遠の破滅をその身に招くことになるというのです。永遠の地獄です。どんなに悔い改めてもそこに救いはありません。そこには永遠の苦しみが待っているのです。

・**あなたの御怒りの日が来ました** : この「御怒り」ということばも非常に興味深いことばで、これは「人間の不従順に対する神の怒り、神の刑罰」と辞書は訳しています。つまり、このことばが意味するのは、神は私たち人間のような存在ではないということです。私たち人間は感情的になって怒りますが神はそうではありません。神はすべてをご存じの方ですから、人が行なったことに応じてそれにふさわしい報いを与えるのです。公正なさばきが為されるのです。

C. 神の応答 19節

19節にはこれらに対する神の応答が書かれています。「それから、天にある、神の神殿が開かれた。神殿の中に、契約の箱が見えた。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。」と。ここに記されていることは黙示録15：5に書かれていることと非常によく似ています。「その後、また私は見た。天にある、あかしの幕屋の聖所が開いた。」、この15章は16章から始まる最後の審判の序章です。さて、19節に書かれている出来事は何でしょう？神は何を為さったのか？

1. 神の祝福 : キリスト者が得た祝福

1) 聖い神との交わりを得た

「天にある、神の神殿が開かれた。」とあります。神殿の中に契約の箱があったのですが、それはどこにあったのか？憶えておられますか？至聖所と言われる最も聖いところにありました。普通、人々は絶対に見ることができなかつた。大祭司が年に一度だけそこに入ることができました。そこが見えたのです。つまり神は、救いに与った者たちに対して、この讚美を礼拝をささげている者たちに対して、「あなたは聖い神であるわたしと交わりを得た」と約束されて、神の祝福を教えるのです。あなたはいつでも聖い至聖所の契約の箱の前に立つことができる、いつでもわたしと交わることができる、そのような特権に与っているということを話し、二つ目に、

2) 聖い神との契約が結ばれた

「契約の箱」は神が人間と結ばれた契約を象徴しています。旧約聖書を見ると、神は人間との間に何度も契約を結ばれました。アブラハムとの間にもダビデとの間にもモーセとの間にも…。そして、新約の時代の私たちとも神は契約を結ばれました。このすべてをお造りになり唯一の救い主は私の神でありあなたの神であり、私たちはこの方の奴隷です。こうして私たちはこのお方に従って行って契約を結んだのです。そこで神はここで契約の箱を見せられた。神との親しい交わりをもつという祝福だけでなく、神と私たちには契約があると言われたのです。わたしがあなたに約束したことは必ず成就するという約束です。イスラエルに約束されたことを神は守られるように、私たちと結ばれた約束も神は必ず守られるのです。

神はご自分の敵を滅ぼされます。そうして、ご自分が言われたことが正しかったこと、ご自分が言われたことは必ず守るということを明らかにされます。そして、私たちに永遠の祝福を与えてくれます。そのことによってご自分が約束されたことは必ず守られる神であることを明らかにされるのです。こうして神が、その当時迫害に遭っていたクリスチャンたちにこのような応答をなさったのです。当時のクリスチャンたちがどんなに慰め励ましをいただいたことでしょうか。確かに、今、私は迫害を受けているけれど、神は私を歓迎してくれて、私は神の前にいつも立つことができる、神と親しい交わりを持ち続けることができる、しかも、神が私に約束されたことを神は必ず成就してくださる、私の救いは失われることがない、そして、神は私を御国へ入れてくださる、私はこの神と永遠をともに過ごす。

2. 神の警告

神が嘘つきでないことは感謝です。神は約束されたことを必ず守る、感謝です。そのことを今一度、彼らに明らかにされるのです。わたしはわたしの契約を忘れない、わたしの結んだ約束を忘れることはない。間違いなく、多くの迫害下にいたクリスチャンたちはこのことばを聞いて慰めを得、励ましをもらってより忠実に生きていったでしょう。そのことを神はあなたにも期待しておられます。

皆さん、私たちは今日、この後、どのようなことが起こって行くのかを見て来ました。このことが確実に起こる以上、私たちは備えをしなければなりません。約束されたことが必ずそうなる以上、私たちもこのお方を信じてこの方に従っていくことです。信仰の火を燃やすことです。しっかり、この方に立って、このみことばに立って生きていくことです。そうして主に会う備えを為してください。

《考えましょう》

1. 天で大きな讚美がわき起こったのはどうしてですか？
2. 24人の長老たちが感謝した神の三つの属性は何でしたか？
3. この世はなぜ、神に怒りを抱くのでしょうか？
4. あなたが今日教えられたことは何ですか？それはあなたの日々の生活にどのような影響を与えますか？友人と学んだことを分かち合い、励まし合って、みことばの実践に臨んでください。